

## 第 10 回機関リポジトリ推進委員会議事要旨

1. 日時：平成 28 年 2 月 12 日（金）9:30～12:00

2. 場所：国立情報学研究所 19 階会議室

3. 出席者：

（委員）

富田 健市	北海道大学附属図書館 事務部長
行木 孝夫	北海道大学 大学院理学研究院 数学部門 准教授
江川 和子	筑波大学附属図書館 副館長
尾城 孝一	東京大学附属図書館 事務部長
杉田 茂樹	千葉大学附属図書館利用支援企画課 課長
山本 和雄	横浜国立大学 図書館・情報部 図書館情報課長
森 一郎	新潟大学 学術情報部 学術情報管理課長
島 文子	京都大学附属図書館 総務課長
大前 富美	大阪府立大学学術情報センター学術情報室 主査
佐藤 翔	同志社大学免許資格課程センター 助教
安本 裕和	関西学院大学図書館 事務部長
細川 聖二	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 課長
高橋 菜奈子	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 副課長
山地 一禎	国立情報学研究所学術ネットワーク研究開発センター（コンテンツ科学研究系） 准教授／学術リポジトリ推進室長

（陪席）

酒井 清彦 国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長

（事務局）

前田 朗 国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 係長  
増山 廣美 国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 事務補佐員

（欠席）

池田 大輔 九州大学大学院システム情報科学研究所 准教授  
菊池 亮一 明治大学 学術・社会連携部図書館総務事務室 事務長

<配付資料>

第 10 回機関リポジトリ推進委員会出席者名簿

- 1-1. 第 9 回機関リポジトリ推進委員会議事要旨
- 1-2. メール審議（平成 27 年 11 月以降）結果（報告）
- 2-1. リポジトリ推進協会の設立について（案）
- 2-2. 機関リポジトリ新協議会（仮称）設立趣意書
- 2-3. 会則（案）
- 2-4. 運営委員会規程（案）
- 2-5. 組織構成図（案）
- 2-6. 会費規程（案）
- 2-7. 会費の考え方（案）
- 2-8. JAIRO Cloud 共同運営体制図
- 3-1. 平成 27 年度 機関リポジトリ推進委員会活動報告（案）

- 3-2. 平成 27 年度予算執行報告
- 4-1-1. 課題領域「全般」H27 活動報告及び H28 活動計画
- 4-1-2. 平成 27 年度研究集会開催報告
- 4-2. 課題領域「オープンアクセス方針」H27 活動報告及び H28 活動計画
- 4-3. 課題領域「基盤の高度化」H27 活動報告及び H28 活動計画
- 4-4. 課題領域「コンテンツの充実」H27 活動報告
- 4-5. 課題領域「研修・人材養成」H27 活動報告及び H28 活動計画
- 5-1. 平成 28 年度 機関リポジトリ推進委員会活動計画（案）
- 5-2. 平成 28 年度 機関リポジトリ推進委員会委員（案）
- 6. 2016 年度 NII 学術情報基盤オープンフォーラム企画案（たたき台）

#### <参考資料>

- 1. 平成 27 年度機関リポジトリ推進委員会 WG 体制

#### 4. 議事

##### (1) 第 9 回議事要旨及びメール審議結果確認

事務局(NII 前田係長)から第 9 回議事要旨（資料 1-1）、及び第 9 回委員会後のメール審議（資料 1-2）について説明があり、異議なく了承された。

##### (2) リポジトリ推進協会について（審議）

設立準備会・主査の江川委員より、資料 2-1～8 に基づきリポジトリ推進協会（以下、「協会」）の設立準備会検討結果について説明があった。以下の意見交換を行い、設立準備会にて反映方法を検討し、2 月 23 日の連携・協力推進会議にて提案することになった。

- ▶ 法人格を持つのか  
→会費を徴収し自立運営を目指す、当面は任意団体である。
- ▶ 事務局は国立情報学研究所におくのか  
→JUSTICE と同様の組織を想定している。
- ▶ 協会の名称について、目的はオープンアクセスの推進であり、リポジトリは手段ではないか  
→リポジトリを謳うことで、活動内容を明確にしたいという意図である。
- ▶ 協会が JAIRO Cloud を共同運営することが明記されていないとの指摘があった。  
→会則には個別サービス名称は書かないが、事業内容は大学への説明・周知のための資料等で明示する。
- ▶ 協会と連携・協力推進会議との関係等、ガバナンスの明確化が必要であるという意見があった。  
→設立準備会にて見直しを行う。

##### (3) 平成 27 年度機関リポジトリ推進委員会報告について（審議）

事務局(NII 前田係長)から資料 3-1、及び 3-2 に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

なお、予算の使途としてミーティングや調査が多く、具体的な成果が分かりづらい点が指摘され、今後協会が会費を徴収して活動をするのであれば、目に見える成果を会員に示すということを意識すべきとの意見が出された。

- (4) ワーキンググループの平成 27 年度活動報告及び平成 28 年度活動計画について（審議）  
各 WG から報告があり、意見交換を行った。WG の編成について、関連するテーマが複数の課題領域にまたがっていて整理の必要な班もあるという指摘があった。

1) 課題領域「全般」

杉田委員より、資料 4-1-1、4-1-2 に基づき説明があった。事務局（NII 前田係長）から、メタデータ小委員会について、新規の委員会の設立ではなく委員会の作業部会として開催したいとの提案があり、了承された。また、オープンアクセス方針にて検討を行った junii2 メタデータ検討結果について、メタデータ小委員会で議論をすることを確認した。

2) 課題領域「オープンアクセス方針」

尾城委員より、資料 4-2 に基づき説明があった。オープンサイエンス推進へ向けて名称および活動体制を今後見直すことを確認した。

3) 課題領域「基盤の高度化」

佐藤委員より、資料 4-3 に基づき説明があった。機関リポジトリの researchmap 連携及びログ活用の高度化について、平成 28 年度も引き続き取り組むことを確認した。

4) 課題領域「コンテンツの充実」

森委員より、資料 4-4 に基づき説明があった。これに対し、次の意見があった。

- ILL の評価について行う必要があるのではないか
- 研究助成機関の助成による成果を補足し、OA 化を促すのはどうか
- 計画で言及されている学内紀要の登録状況の調査は ERDB-JP の活動と重複しているのではないか
- 学内紀要の登録状況の調査にあたり、雑誌リストさえできれば各雑誌の IR 登録率は機械的に確認ができる

5) 課題領域「研修人材養成」

山本委員より、資料 4-5 に基づき報告があった。これに対し、次の意見があった。

- 次回の SPARC のイベントテーマは Open Education であるが、多様なコンテンツをリポジトリに取り込むことを考えると、参加したほうがよい
- 今後の RDA 総会の参加については、東京で開催される RDA 2016 の様子を見て決めるのがよい
- IDCC には毎回参加でよい

- (5) 平成 28 年度機関リポジトリ推進委員会活動計画について（審議）

事務局(NII 前田係長)から資料 6-1、及び資料 6-2 に基づき説明があった。各 WG の活動については、リポジトリ推進協会への移行や協会の重点目標を想定して、各顧問委員、委員長、事務局にて調整の上、2 月 23 日の連携・協力推進会議に提案することになった。

来年度の各課題領域の計画及び協力員の募集について、次のことを確認した。

- ・各課題領域の平成 28 年度計画について、引き続き検討を行う
- ・WG 構成は基本継続とする
- ・現協力員の継続意思を各顧問から確認し、もし不足があれば協力員の追加募集を考える

また、来年度の機関リポジトリ推進委員会について、退任される大前委員の後任は公立大学図書館から推薦される予定であること、それ以外は原則継続の予定であることが確認された。

(6) その他

高橋委員より、資料 6 に基づき国立情報学研究所主催のオープンフォーラムにおける委員会広報企画案について説明があり、委員会として活動として取り組むことになった。大学の OA ポリシーもテーマにとりあげてはどうかという意見があったが、先行大学でのポリシー策定の効果の検証が時期的にやや尚早の感があり、年度後半のイベントで再検討することとした。

以上